望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方

日立市立櫛形小学校

1　はじめに

本校は、150年の歴史と伝統のある学校である。児童数は678人であり、特別支援学級を含む31学級（通級6教室）の大規模校である。住宅地が多いものの、自然豊かで、ビオトープなどの教育資源、スクールボランティアなどの地域の方々の協力体制も充実している。

2　実践事例

（1）子ども主体の児童会活動

児童の問題意識を高め、成長する喜びを実感し、個人や集団がよりよくなるために自分ができることを考えて実践していこうとする児童の育成を目指すために、児童会活動において、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を意識した取組を行った。

ア　「みんなの学校を大切に」－創立記念集会－

7月7日の創立記念日を祝う集会に向け、運営委員会の児童が櫛形小学校の歴史を調べ、プレゼンテーションソフトにまとめて紹介した。今年度は150周年記念行事を兼ねて、櫛形小出身の花陽みくさんをお招きし、お話を伺った。また、櫛形小のよいところや、改善していきたいことについて4～6年児童にアンケートを実施した。その結果をもとに運営委員児童が話し合い、よりよい学校にしていくために「友達、そうじ、あいさつの3つを大事にしていこう」と呼びかけることで、学校生活をよりよくしようとする態度を高めることができた。

イ　「1年生を元気に」－1年生を迎える会－

初めての小学校生活に不安がある1年生に喜んでもらえるように、2～6年生がお祝いのメッセージを送った。どの学年も工夫を凝らした内容になっており、心のこもった会となった。また、運営委員会の児童が主導で、学校の過ごし方について全校で確認したいことを出し合い、劇を演じた。劇の中で「安全に生活して、よりよい櫛形小学校にしていきましょう」と呼びかけることで、学校生活におけるルールを再確認することができ、各学級での指導に生かすことができた。

3　成果と課題

本年度、各集会活動をリモート開催から体育館での全校開催に切り替えた。そのことで、対面ならではのよさを再確認することができた。しかしながら移動に時間を要したり、全校児童が入るスペースが狭かったりするなど体調面も考慮して行っていく必要性がある。また、年間行事の企画・運営に手一杯で、児童の主体性のある活動との兼ね合いに課題が残った。